

## 第4節 水道施設の整備

### 現状と課題

本県の水道普及率は、平成14年3月末で95.7%に達し、水道は、県民生活の衛生水準の向上や経済活動に直結する基盤施設として、必要不可欠なものとなっています。

今後も県民皆水道を目標に、水道未普及地域の解消や地震あるいは濁水に強い水道の整備を図って行く必要があります。

また、水道施設の広域化と長期安定水源の確保を図り、安全で清浄、豊富な生活用水を供給することにより水道事業の経営の健全化を進める必要があります。

O157やクリプトスポリジウム等の新たな感染性微生物対策、無差別テロ対策等質の高い飲料水の衛生確保がより重要となってきていることから、水道水質管理の体制を強化する必要があります。

### 施策

#### 1 水道施設整備

- (1) 県民皆水道をめざし国庫補助を活用した水道施設の整備と地震や濁水に強い水道づくりを水道事業者に指導します。
- (2) 榊谷ダムを水源とする日野川地区水道用水供給事業を推進し、丹南地域2市4町の長期安定水源を確保するため財政支援を行います。

- 2 安全で良質な水道水を確保するため、クリプトスポリジウム等の感染性微生物等に対応した膜ろ過施設等高度浄水施設整備の促進や水道の危機管理体制の強化について水道事業者に対する研修会等を行います。

#### 【用語の解説】

##### ● クリプトスポリジウム

原虫の一種であり、動物に寄生し、糞便を通じて体外に排出される。感染した場合の主な症状は水溶性下痢と腹痛である。